

牧師所感： 退職牧師と就任牧師

— 下妻 (茨城県) シャロームキリスト教会 —

2024 年 4 月 2 日（火）は、下妻シャロームキリスト教会においては 教会創立以来 最も祝福された一日であったと思う。

ところで 最も祝福された一日の出来事とは、今から 16 年前、山本 悦子女史は 死に至る病を得、“神と格闘の末、神の祝福を勝ち取ったヤコブのように”、必死になって祈って 神の癒しを得られたことを知る。その祈りは激しく、健康を取り戻して下されば “生涯を神様にお捧げします” と誓言なさった と聞く。

ところで 誓ったように 悦子女史は牧師となり、現在の教会を建立され、16 年間 単立教会として牧会され 人々の魂をキリストに導く使命に 生涯を捧げてこられた。山本牧師の姉君の 小室様のご家族と、教会員の献身によって今日の教会がある。

さて 筆者との出会いは、朝祷会に於いて知り合いになり、今日に至っている。

さて 筆者は 在日大韓基督教団 所属の引退牧師（70 才）で、引退後、千葉県八街市 勢田 828-2 に開拓教会を建立し、単立教会の牧師として、使命に従事している。

ところで 山本 悦子牧師は 東京地区での朝祷会に御参加されるだけでなく、ご自分の教会の朝祷会に 他教会の先生方や 信徒の皆さんを招待して 礼拝をお捧げしてこられた。毎月の朝祷会は 月の初めの火曜日である。今までの回数は 201 回目である。特に注目したいのは、コロナ禍の激しかった時でさえも 礼拝を欠かすことなく、他教会の信徒を 信仰によってお招きされた。コロナ禍であっても 山本牧師には 揺るぎない信仰があった。常時 礼拝出席人数は 20 人程度、少なくて 15、6 人であった。だが 山本 悦子牧師にも悩みがあった。老齡故に 後任選びの問題であった。筆者も 後任牧師招請に祈りを添えた。

然るに 全能の神は 山本牧師と信徒の祈りに答えられた。幸運は 当 シャロームキリスト教会の後継の牧師に招聘された 田村 俊彦氏で、神学校を出られたが 未だに 牧師按手を受けていなかった。が、去る 4 月 2 日に 先輩牧師諸氏より、按手を受けて 牧師となられた。更に祝福は 牧師叙任と共に 牧師の働き場所となる キリスト教会の第 2 代目の牧師に就任する栄を得られたことである。筆者も 牧師諸氏と共に 田村氏の頭に 手を置いて 按手した者となったことを 喜んでいる。正に 国際教会であり、田村牧師が 韓国語や中国語も 堪能であるから 正真正銘 国際教会である。

おわりに、主の教会に栄光あれ！！